

アルテスネイト

副作用がない

がんアルテスネイト治療



アルスネイトについて

中国では古くから青蒿（せいこう）というキク科ヨモギ属の植物が、解熱剤などとして用いられてきました。青蒿（せいこう）から分離されたアルテスネイトは、現在マラリアの治療薬(世界で唯一の薬剤)として全世界で、年間2億3000万人余りの患者様を治療しています。WHOが管理する世界的な薬剤です。ワシントン大学佐々木教授は、アルテスネイトの抗腫瘍作用について種々の研究を行い、がん治療薬として、欧米・国内医療機関において副作用もなく、治療効果を上げています。そして、近年、アルテスネイトに抗がん作用があることが多くの研究で立証され、現在治療効果を出しています。

副作用について

抗腫瘍作用を示す投与量では正常細胞に対する毒性がなく、副作用がほとんどないという特徴を持っています。アルテスネイトは昔からマラリアの治療に使われていた生薬(漢方)の成分で、安全性が高く副作用がほとんどない事が確認されています。



アルテミシンの発見者がノーベル賞を受賞

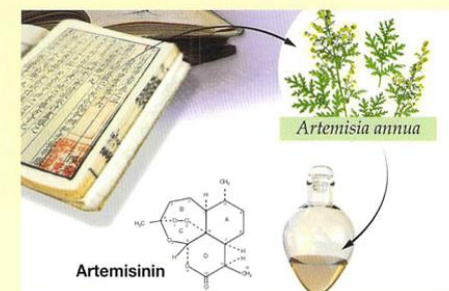
アルテミシニンを発見したトウユーユー博士(屠呦呦博士・中国中医科学院・北京)が2015年ノーベル医学・生理学賞を受賞しました。既に医学界のノーベル賞といわれるラスカー賞(アルバート・ラスカー医学研究賞)を2011年に受賞されており、重ねての受賞となりました。「伝統薬から開発された医薬品としては、20世紀後半における最大の業績」とある書物では表されているほど、医学においては重要な成果だと位置づけられています。ラスカー賞受賞・ノーベル医学・生理学賞受賞ともに中国人として初めてのことでした。



2015年ノーベル医学・生理学賞発表記者会見スライドの一番右が、トウユー博士



トウユーユー博士
2015年度
ノーベル医学生理学賞受賞



(上図は、ノーベル財団プレスリリース資料より)

アルテスネイトでのがん治療

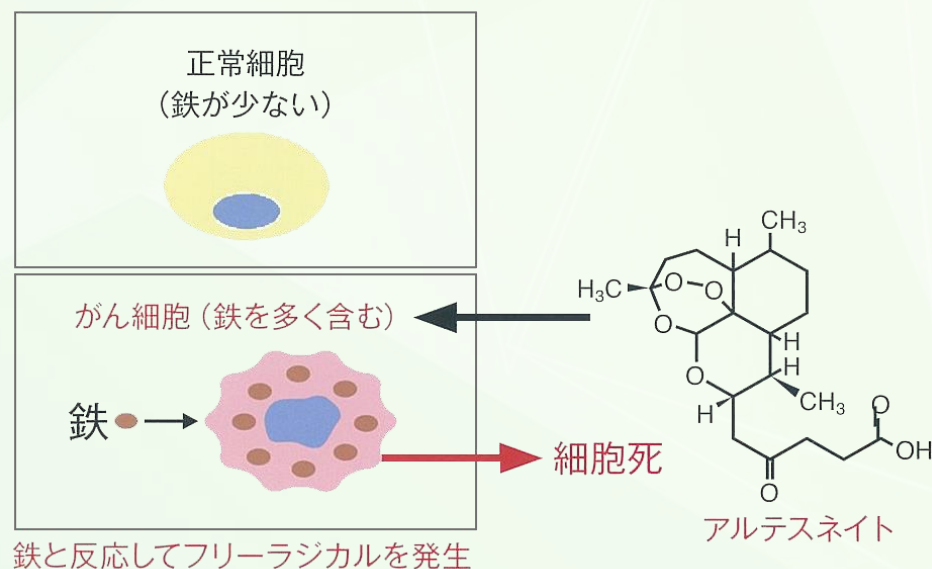
がん細胞が活性酸素(フリーラジカル)に弱い特性を利用

がん細胞は、鉄を多く取り込んでいます。がん細胞内には、鉄イオンが多く含まれていますので、アルテスネイトはその鉄イオンと反応して、フリーラジカル発生させて、がん細胞を消滅させます。

多彩な抗がん作用

アルテスネイトの抗腫瘍作用のメカニズムは、がん細胞内でフリーラジカルの産生を増やし、酸化ストレスを高め、がん細胞に細胞死を引き起こすのが基本です。「腫瘍組織の血管新生を阻害する作用」、「がん細胞の転移と浸潤を抑制する作用」が報告されています。

抗がん作用の仕組み



がん再発防止効果

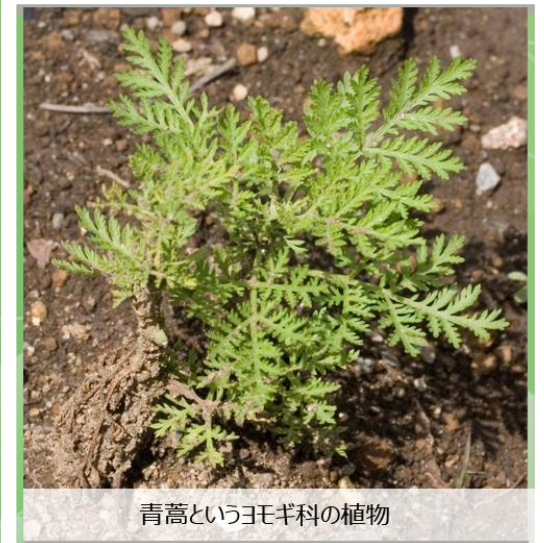
がん再発の元になる「がん幹細胞」に対して殺傷効果が高い研究論文があり、再発防止効果があります。

アルテスナイトでのがん治療

- 商品名：アルテスナイト注射液(60mg)
- 適応症：全てのがんに適用（白血病、悪性リンパ腫含む）
- 投与プログラム（30本～40本/1クール）
静脈点滴1日3本
週1回～週3回投与 点滴時間は、20分余り
抗がん剤との併用治療(多くの患者様実施)は
治療日(翌週、数日空けて)変えて行います。
- 治療費用 合計：900,000円～1,200,000円
(1本 30,000円×30本～40本)消費税はかかりません
- よもぎ類に、アレルギーがある患者様は、慎重投与



中国のトゥーユーユー博士



青蒿というヨモギ科の植物

「脳腫瘍の症例報告」

第二回 日本先制臨床医学会 発表講演

アルテスネイト製剤で治療を受けた「神経膠芽腫の症例報告」 神経膠芽腫(脳腫瘍)の術後に、アルテスネイトを継続使用し、再発を認めていない症例を経験したので報告する。患者は31歳男性、2016年夏から頭痛、嘔気あり。2016年12月に名古屋セントラル病院で右前頭葉の脳腫瘍と診断され同月手術施行、神経膠芽腫(4期、余命6ヶ月)と診断され、2017年1月から化学療法開始。化学療法は、テモダールとアバスチンを使用した。

放射線量も併用し合計60gy照射をおこなった。化学療法については、倦怠感、悪心・嘔吐などの副作用があり、テモダールを初回42日間服用して中止した。2017年10月からアルテスネイト180mg(3V)の注射液を週1回のペースで開始した。

2018年2月からは、アルテスネイト180mgの注射液を2週に1回のペースでおこなっている。

手術をした病院で定期的に、頭部MRI検査施行しているが、再発の兆候は認めていない。

今回悪性度の高い脳腫瘍である膠芽腫に対し、標準治療後の治療として、アルテスネイトを継続的に使用して再発を認めず、アルテスネイトの有効性が示唆された。

〔追加内容〕 治療終了後6年半余り経過、脳腫瘍の増殖はない。MRI検査は4ヶ月おきに実施する。現在治療は行っていない。元気に仕事、スポーツなど行っています。

アルテスナイト治療の所感

愛知県 60歳 女性 (2023年2月治療 1クール治療、木村病院)

乳がんから4年目、二度の転移(胆管がん,手術出来ない)から抗がん剤治療を中心とした病院治療に、疑問を持ち民間治療や病院治療の問題などを調べてきて、アルテスナイトを知り、最初からこれが絶対だと思いました。

ただ、それだけで治療に向かう勇気と決断に鈍っていた時に、たまたま知人の紹介から、木村病院でその点滴治療を行っている事を知り、背中を押してもらったつもりで始めました。

どうしても早急にがんを縮小させる必要もあったので、抗がん剤治療と併用しました。

1か月後にすぐ効果は数値に現れ、さらに翌月には、PETやCT画像では、がん細胞はなく消滅していました。体調も大変良いです。

恐らくまだ体内にはがん細胞は残っているはずですが、副作用がない事が一番良い点であり、今後も続けていくつもりです。

アルテスナイト注射薬で治療効果が出た症例

患者様：女性75歳 愛知県 2クール治療（木村病院、名古屋）

豊橋市民病院 3年前、卵巣がんオペ。大腸がん転移4期、腹膜播種で腹水貯留あり。
2022年 抗がん剤投与するがマーカー上昇。他抗がん剤を投与するがマーカーは下がらない。
食事が出来ないで体力が落ちる。

アルテスナイト治療で、腫瘍マーカーも下がり、
腹水が2022年10月から2023年3月 6ヶ月余り溜まらなくなり体調も良くなる。

患者様：女性36歳 京都市 2023年5月 2クール治療（田中クリニック、大阪）

神経膠芽腫（脳腫瘍）4期

京都医療センター 放射治療終了、抗がん剤治療は行っていない。体調は良くなりました。

患者様：女性73歳 秋田県 2023年1月 1クール治療（星子クリニック、東京）

下咽頭がん 大学病院、他施設からは手術しか治療はないと言われ、ホテル宿泊して治療を行う。

アルテスナイト注射薬治療を行い、痛みがなくなり体調も良くなり秋田に帰る。
12月現在、体調は良いとの連絡がある。